

クラブライフの提案

「マロニエクラブのオテル ド マロニエ下呂温泉」

目次

【1】マロニエから眺める下呂温泉

マロニエからの下呂温泉を眺めていると、下呂千年の確執が見えてくる。湯之島・森・幸田の3すくみは、ビジネススクールの絶好の事例になる。

【2】オテル ド マロニエの所在地

下呂温泉の主力事業所は、いまとなると、崖っぶちか、山の斜面にあるようにみえる。マロニエの創業者は、日本人が余暇志向すべきと考えたが、創業者の周囲は大反対だった。

【3】大宴会場を排し、洋室中心に

大旅館大繁盛の時代に、次の間付客室や大宴会用大広間をやめて、洋室を取り入れ、「温泉ホテル」を目指したが、先行業者の反発に会い、温泉の自力掘削の道を歩んだ。

【4】温泉はだれのものか

益田川氾濫の都度、投資をしてきた湯之島は、下呂温泉こそ自分たちのものという意識がある。「温泉権」は、先行事業者保護か、既得権打破か、マロニエは、我が道をゆき源泉を確保し、バブル崩壊を乗り越えた。

【5】ゆとりプラン

1日1600kcalの範囲で食事を提供する。ゆとりプランは、6泊7日、17食、1名1室で会員50,000円、健康志向の滞在商品である。減食して、毎日何回も温泉に入って、そこらじゅうを散歩しながら、課題を抱えて、実際、1週間を過ごしてみると、観光にはない、滞在独特の充実感を味えた。

【6】ぴんころ地蔵のこと

マロニエ下呂温泉20周年記念事業で、健康で長生きし、楽に大往生を祈念して建立されたという。ゆとりプランの到達点を象徴しているのかもしれない。ふだんどちがったところで、1週間の滞在をどう過ごすか、ゆとりプランでは、これを考える効果も大きい。

【7】過ごし方の分類

ゆとりプランの年間の利用者は2000件程度。その利用実績をベースに、過ごし方を分類してみると、ゆとりプランの滞在はいろいろな可能性をもっていることに気づく。

【8】朽本(とちもと)農園・ガン封じ寺・飛騨小坂町の温泉など

朽本(とちもと)農園はマロニエ創業者の縁者が経営するフルーツマト農園である。ガン封じ寺(金錫山地蔵

寺)は出羽三山に由来をもつが、たたずまいがむしろほほえましい。旧・飛騨小坂町の温泉はめだたないが、効能は大と思い紹介する。

【1】マロニエから眺める下呂温泉

1：格別なマロニエからの下呂の眺め

ホテル ド マロニエ下呂温泉の紹介に入る前に、マロニエの客室から遠望する下呂市内を紹介しよう。人口は合併して旧下呂に萩原を足してやっと 3.6 万人。その温泉街 やその静止画は見ても 1 分ももたないのも確かであり、それよりも、東の山の端にゆったりの月の昇る一瞬の方が、まだしも趣きが深いのではあるが、実は 1000 年に及ぶ確執の果ての画像となれば、ご紹介する意義があろう。



【01】 マロニエの客室からある日の早朝の平凡な光景



【02】 客室から見えた山の端から登る一瞬の満月

マロニエのお客さまにはご滞在のうえ、これを鳥のごとくに観られ、まさに下呂温泉を舞台とした「飛州下呂三湯伝」を鳥瞰され、日頃のお仕事のご参考に供していただければ、書き手としては幸甚の至りである。

三湯とは時代で変貌するが、もともとは下呂の温泉とは、益田川の河原に湧き出る（自然湧出）湯のことで、湯之島村本組が「マネジメント」し共同浴場を運営していた。しかし、時代が下って、河原から岸に揚湯（掘削動力揚湯）が可能になると、共同浴場の位置をある程度選べるようになる。1カ所だった浴場は、1916（大正15）年に二派に分かれて、一に湯之島の薬師、二に白鷺となる。対岸の湯之島村分村の幸田は指を噛んで見ただけだった。

しかし、数年後の1930（昭和5）年に、鉄道省下呂駅が幸田にできるとなると、おそらく180年ぶりに失地回復に目覚め、第三の幸田が登場した。下呂駅から若干下流に「六見橋」が完成する。それから、下車客の通り道になる旧森村が目覚め、第四に新市街地（現在市役所のあるブロック）の森が出現する。プレーヤーは4派となるが、戦後は、薬師と白鷺が一派にまとまり、一に湯之島（薬師・白鷺）、二に森（新開地）、三に幸田となる。

江戸末期、明治初頭の行政区分でいえば、一は湯之島村の本組、三は湯之島村の枝村、二が森村であり、一と二が益田川の東側（下流に向かって左側）、三が西側（右側）になる。ちなみに、マロニエは西側の西上田村にあり、三すく身の外にあるので、高みの見物ができることになる。

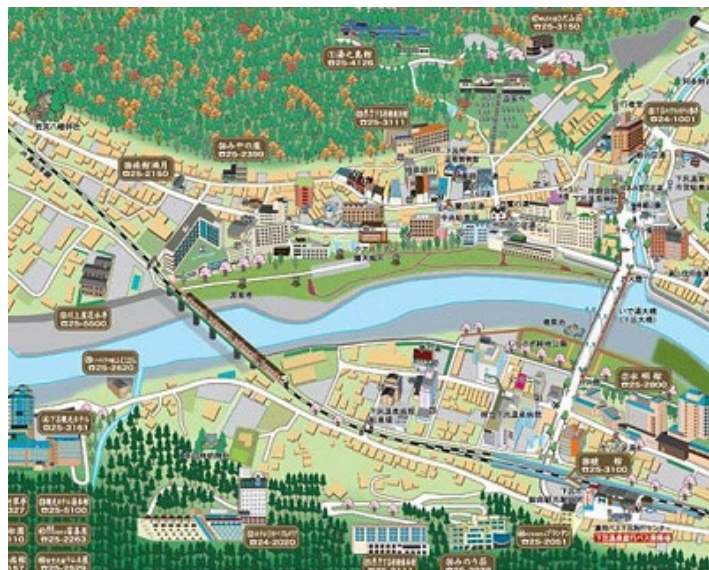


【03】現代に残る湯之島・森・幸田の地名（google から）

1の続き：意外にも現代の主力は崖っぴちに

下呂の本丸・湯之島、その中央に位置するあまたの旅館が主役ではある。しかし、湯之島は名古屋の岩田武七、幸田は一宮の滝此七が象徴的人物で、ともによそ者である。

湯之島の随一は岩田が創業した湯之島館（湯之島東崖下）、幸田は滝の創業になる水明館（湯之島の対岸）、である。そして下呂観光ホテル（幸田西崖下）も長坂正恵が日本旅館国際女将副会長（2012 年度）を務め、ryokan を国際語にすべく頑張っている。ただ、いずれも湯之島の中央にはない。河川を挟んでその両側の崖淵にある。



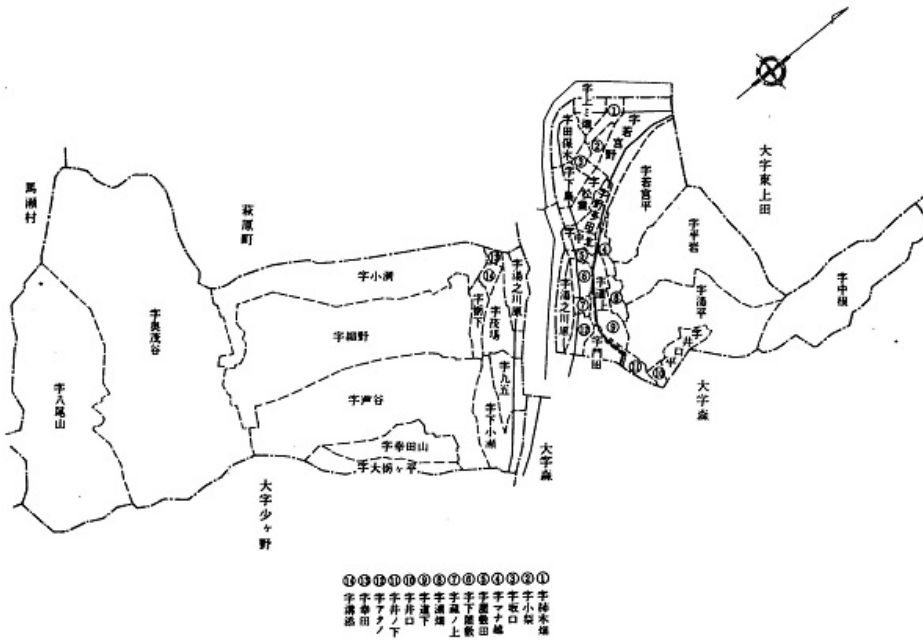
【04】現在の案内図

中央の益田川上部が湯之島本村、その上端に湯之島館、川の下部、右端に水明館、左端に下呂温泉ホテルがある。マロニエはさらに左に位置する。



【05】 *昭和 10 年の下呂案内図（下呂温泉博物館蔵）

ついで、河川の位置を確認する。御岳山系の下呂御前山（げろごぜんやま）・空谷山（からたにやま）あたりを源流とし、阿多野谷を通り湯之島橋を経て益田（ました）川（飛驒川の別称）に流れる河川は、手元の地図を見ても名前の記載がないので X 川としておこう。昭和 10 年の案内図にはアタノ谷とある。益田 川を挟み、おおむね東側が旧・下呂町、西側が旧・萩原町（ただし幸田は旧・下呂町）である。我がマロニエの立地する西上田は旧・萩原町となる。東側のうち X 川から北の部分が湯之島、南が森、そして西側は幸田と呼ぶ。



宇限図 湯之島

【06】明治初年山絵図（徳川林政史研究所蔵）

ただし、徳川林政史研究所の山絵図（明治初年）によれば、幸田も湯之島村の一部である。益田川下流に向かって左岸にある湯之島村南側が森村となる。

益田川の河原に湧出（自然湧出）する温泉は誰のものか。マロニエの客室から下界を遠望され、益田川

の蛇行と川幅をじっと眺めて、ご滞在客各位には、この 1000 年の間の益田川の氾濫をご想像いただく。

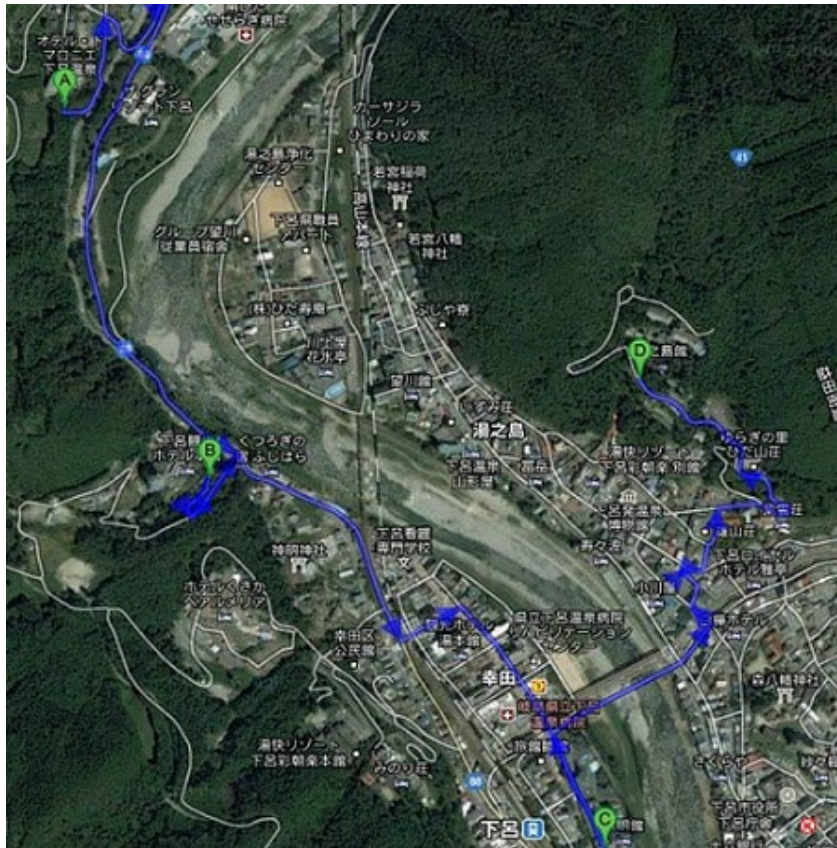
氾濫は河原の温泉を破壊する。その修復に資金がいるが、だれがどう負担するのか。そして涌出する位置も変わるので、益田川の河原の湯は、湯之島村本組のものか、枝村の幸田組のものか、大きな問題になった。

【2】オテル ド マロニエの所在地

2 : オテル ド マロニエも崖の斜面に立つ

マロニエの所在地は岐阜県下呂市萩原町西上田 2259-9 である。湯之島ではないことはもちろん、ついこの前までは下呂町でもなかった。しかも、山のなかの急斜面にして北の外れである。だから良かったのだ。

水明館、下呂観光ホテルも幸田地区にある。湯之島のど真ん中ではない。だから立地できた。また、下呂駅（現 JR 東海）も幸田地区だった。



【07】 A : マロニエ、B : 下呂観光ホテル、C : 水明館 D : 湯之島館

マロニエはこの立地でずいぶんとトクをしていると思う。つまりは湯之島・森・幸田が繰り広げる 1000 年の騒動から超然として、もっといえば下呂温泉三国志ならぬ「下呂三湯伝」を高みで見物できる。これは特権である。この特権は実にマロニエの会員のものでもあるのだ。

争いのタネは土地よりも、益田川の河原に自然湧出する温泉であった。この温泉を湯之島・森・幸田という 3 つのプレーヤーが狙う。森は新開地だから、かつて湯之島のあった 2 つの派閥の薬師派と白鷺派とそして幸田が狙う。

薬師と白鷺は1953年に統合する。以降はひとつに数える。

争いに勝ち、維持するにも、時間とカネがかかる。そのコストは最終的には温泉客が負担する。お客にしてみれば負担の割に中身が伴わない。温泉の帰属は旅館経営者には死活問題だが、客にしてみれば、よほどストアロヤリティが高くないかぎり、関係がないことなのだ。

マロニエは幸田の先の北のはずれの山中で、幸田との関係は薄い。しかもマロニエの開発者は目先が利いて河原の源泉を2本買収した。しかも、いま一本しか使っていない。万々がーにそなえ、三湯伝の外側に立っていた。あるいは第四湯として登場する資質を備えているともいえよう。これはオテルドマロニエの共有持分者としてのメンバーのメリットでもある。

なお、下呂温泉三湯の略史は、「飛州下呂三湯伝」として、別のページに展開します。

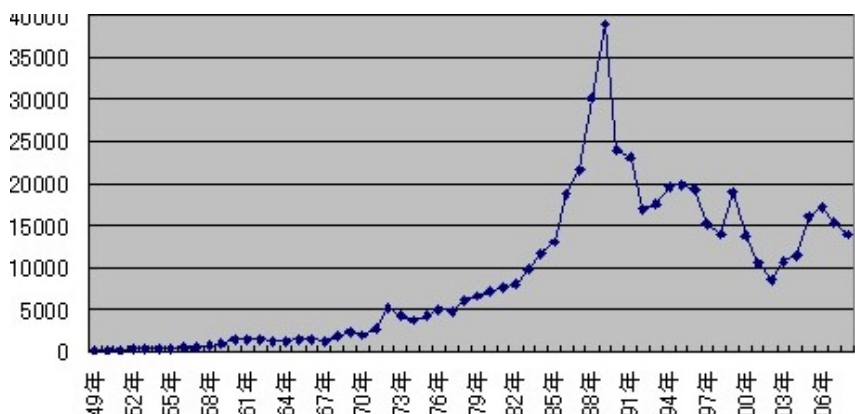
3：マロニエ事始め、日本人は余暇志向すべき…、創業者の周囲は大反対

マロニエの創業者は1930年生で83歳。現会長である。中部圏で集合住宅などの企画・開発をする不動産事業を営んでいた。マロニエの創業は、1985年頃、日本人は働きすぎ、休暇が少ない、余暇社会を志向すべきという批判が、ドイツはじめ海外からのバッシングに端緒があるという。これからは、いずれ余暇時代にはいる、それなら余暇時代に対応する事業をやってみようと考えた。

たまたま、ロータリークラブのメンバーから下呂に用地の紹介をうける。懇意にしている設計家がホテル事業に適しているという。実際に現地を見ると、ホテル用地にぴったりだったので、ここでホテル事業をやってみようと思密かに決めた。

内々に周囲に話してみると、下呂は名古屋から遠い、この人手不足のときに従業員が集まらない、よって運営が難しい、大体いま儲かっているのにこんな事業をやることはない…と消極意見が続出した。要は全役員が反対であった。

しかし、下呂は朽本の在所、未だに実家が残っている。親戚縁者に声をかけて従業員を集める自信があった。「下呂なら何とかなる」と判断して、事業化の「のろし」をあげた。話を聞きつけた第一勧業銀行と鹿島建設の営業担当者が来訪し、名乗りを挙げてくれた。事業化にはいい時代だった。1987年に下呂の用地を取得し、1989年にオープンした。レストランも料理長も親戚縁者が運営してくれた。それでも足りないときは、子供のころ一緒に遊んだ幼なじみに応援してもらった。

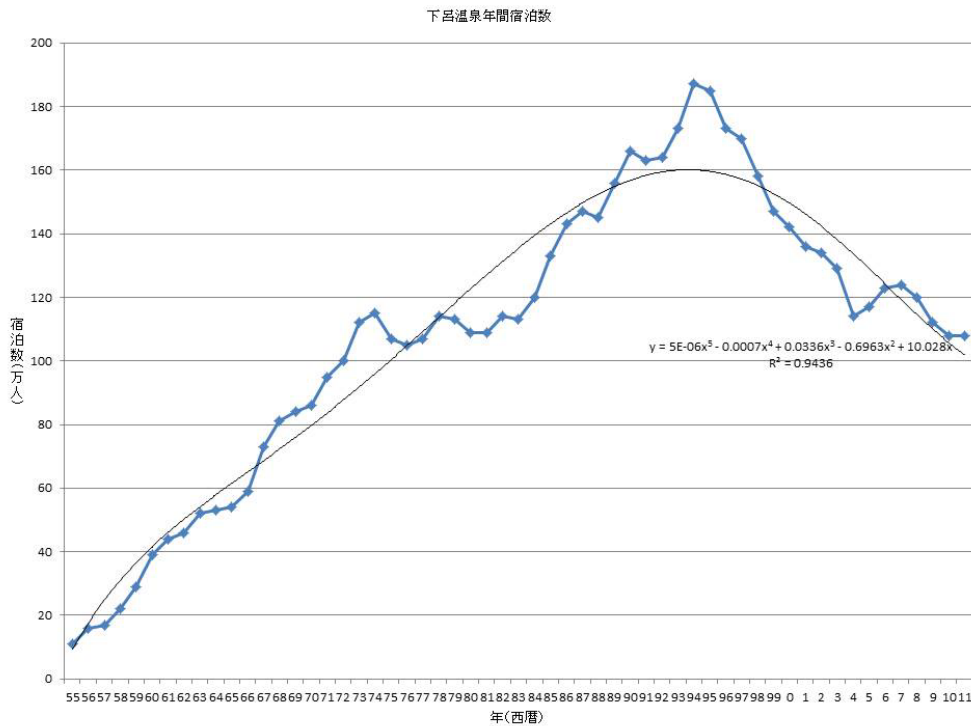


【08】1989年12月29日 日経ダウ史上最高値 38,915円。

後からわかることなのだが、ちょうどバブル経済の頂点だった。会員権はよく売れた。1次・2次ともに完売。3次で完売になりそうだったが、多少残しておこうと考え、100口分を売り止めにした。三越・名古屋店の外商部門が、顧客の紹介を通じて、会員権の販売に協力してくれた。

【3】大宴会場を排し、洋室中心に
4：洋室中心ながら、あえてユカタ

いまから20年まえの1990年前半、下呂温泉の旅館は絶頂期だった。ただし、温泉場でホテル建築といっても、実際は名前だけのホテルで、実際には旅館である。その旅館が大繁盛していた。



【09】下呂温泉宿泊者推移

次の間付き和室・大宴会場が定石だった。貸し切りバスが何台駐車したかが、その日の勝負であった。その営業費用に、旅行代理店の手数料15%と独自に営業を行う案内所の費用4%くらいが加算された。その次の間付き和室に何人も詰め込んだから、それでも十分に利益が出たし、前年対比で増収増益が当然に達成するものと確信していた。いま振り返ると、日本にはそういう時代もあったのである。

大建設もこの定石に沿って提案してきた。大浴場の面積の割り振りについて、当初提案は男:女=7:3であった。しかし、今後は女性グループも増えると予測して5:5とした。大団体宴会場や大型客室の提案も退けた。団体ではなく個人客・核家族をターゲットとした。大宴会場や大部屋は、洋室中心の客室に振り替えた。

問題はパブリックスペースのオペレーションである。たとえばレストランでの浴衣・スリッパ姿を可とするかどうか。ホテルなら当然に「服装を整えて」とすべきところだが、マロニエは浴衣・スリッパで寛げるスタイルを取り入れた。マロニエが考えた「温泉スタイルのリゾートホテル」である。

5: 温泉掘削の手順

都会の中心部のビジネスホテルで温泉をウリにする例が増えた。温泉といっても、タンクローリーで温泉場から温泉をタンク車で輸送し、人工的に温泉の成分を温水に溶解させる(極端に言えば温泉の素を溶かす)があるが、ここでいうのは、街の真ん中で温泉を掘削して泉脈を当て汲み出すものである。

その昔は、下水道はあったとしても、上水道などはない。水道の水で育ったと江戸っ子が自慢したくらいだ。したがって、井戸を掘って水を確保するのは当たり前だった。その水が温泉法という温泉、つまりは 25°C以上かまたは水道に入っていない何らかの成分(少々乱暴な表現だが)があれば温泉である。

信州・上高地だと場所によっては3mも掘れば立派な温泉が出てくるが、街の真ん中だと1000m位は掘る必要があるかもしれない。1000m超となると加速的にカネがかかる。油田と一緒に当らなければ投下資金は霧消し回収できない。リスクはある。ただ、いまは探査方法が飛躍的に向上して、まったくはずれということは、かなり減少している。

自分の土地でも、地権者が了解していれば他人と土地だっにかまわない。極論すれば、口径 200 mm (20cm) の穴と、掘削の機械置き場があればそれでよい。カネさえ出せば、掘削業者が地質業者と組んで、空中から探査し、その結果で試掘に入る。

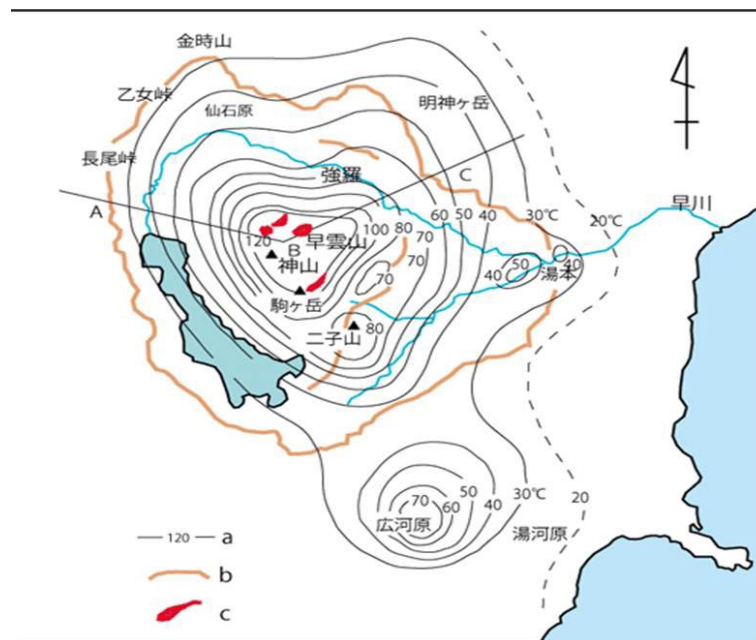


図 箱根火山の地温分布図(海拔標高0m) (Oki and Hirano, 1970)
a: 等温線 b:カルデラ壁 c:噴気地帯

【10】地温分布の例 出典:神奈川県温泉地学研究所

http://www.onken.odawara.kanagawa.jp/modules/t_onsen5/index.php?id=15

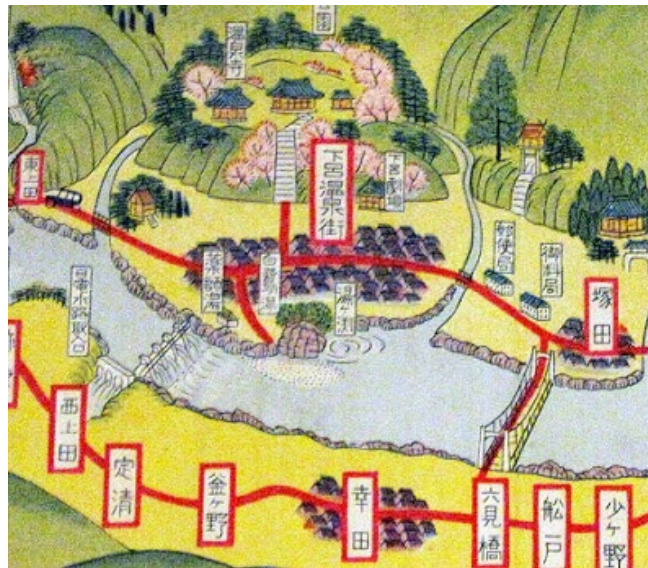
ただ、もうひとつ条件があって、温泉法による掘削許可が要る。都道府県知事(ないし政令市長)に許可権がある。工場用水なら地盤沈下の心配とか、万々が一涌出した温泉にヒ素が含まれたら困るものだが、ふつうは温泉くらいでなにもうるさく言う必要はない。たいていは難なく許可されるべきである。

(注)筆者の独断で温泉法4条1項各号をそう解釈した。

6: 先行業者の妨害

しかし、掘削許可を出して、既存の温泉が枯れたり、その温度が低下すると、なんで許可したのかと詰問され、許可権者は立ち往生してしまう。そこで温泉審議会を設け、専門家に諮問する。しかし専門家だって地下の湯脈など明解にわかるとは限らない。そこで既にある温泉の掘削地点からの距離や深度の基準を決めて判断しようとする。

たとえば 59(昭和 34)年の岐阜県規制では、下呂の場合、試掘の場所を既存の掘削地点から 100m 離し、口径 150 mm 以下で、深度 300m 以内を原則とした。この場合の下呂温泉とは下呂町のみならず、萩原町西上田・東上田を含む。



【11】鉄道開通前の大正末期の下呂温泉(大正 15 年)

これは鉄道(現・高山本線開)通前の大正末期の下呂温泉の案内図である。薬師・白鷺各温泉を記載している。鉄道開通前なので、下呂温泉の最寄駅は、遠く中津川になる。現在主力の湯之島館・水明館・下呂観光ホテルはまだ存在しない。図の下呂温泉街とあるのが、下呂で本流の湯之島村本組に該当する。

ところが、すでに温泉で商いをしている先発事業者は、何かと問題提起し、許可が下りないような基準の運用を求める。温泉が枯渇する心配は建前で、本音は同業者が増えることを阻止したい。つまり温泉法を楯にして、同業者が増えないように壁(参入障壁)を高くする意図も芽生えがちだ、多額の固定資産を背負っているのも、無理からぬ一面はある。長く利益を稼いできた事業者は、同業者を募ってこの壁を高くしようとする。

ただし、温泉掘削の反対運動の原因は、業者間対立だけではない。たとえば地熱発電のための掘削となると、地域ぐるみでの反対になる。下呂でもこの種の活発な反対運動が起きた。1985 年、王滝村(長野県)に地熱発電所建設に対する反対であった。

【4】温泉はだれのものか

7: 温泉はだれのもの・・・既得権益の保護か新規参入促進か

富を産む温泉は財産である。ただしこのことは温泉法では規定していない。利害関係者、あるいは売買の当事者が財産と思っているから財産なのである。したがって、温泉法でいう温泉でなくても、当事者が互いに価値あり

と見れば取引するであろう。

温泉権は誰のものか。これはいささか厄介だ。見つけた人、掘った人、地主、資金提供者、あるいは国民みんなのもの、地域のもの、自治体、住民、利用者…。論文になるテーマである。

(注)興味ある向きは、たとえば以下の文献をご覧ください。安藤雅樹「温泉と法に関する考察」『信州大学法学論集』17号、pp. 291-326、2011年。つぎのURLでダウンロード可能。

https://soar-ir.shinshu-u.ac.jp/dspace/bitstream/10091/13253/1/shinshu_law_review17-05.pdf

下呂温泉は長年これで稼いできた湯之島の住民のモノという意識が強い。48(昭和23)年に下呂温泉供給組合を結成するに当たり、住民を定義した。ここで住民とは、28(昭和3)年以前より湯之島本組在住の本籍者で一家を有し、要は実際に居住し、温泉権を得ようと掘削を試みることなく、まして権利を売却しないような住民である。既存業者に都合の良い定義であった。

この定義は25年後に再確認される。湯之島は、1000年以上も伝統があり、絶頂期を迎え、もともと河原の温泉で河川管理者の役人と対峙してきた。そこで、湯之島は公権力を利用しながら、よそ者の参入の壁を高く設定した。つまり、源泉所有者が湯を預け、旅館業者が引き出す集中管理方式を、下呂温泉事業協同組合(中小企業協組法の認可組合)を組織して1973(昭和48)年から実施している。

要は、組合員になって分湯配湯してもらわない限り、温泉付き宿泊施設はできないことになる。組合員は昭和3年以前の壁があるから、事実上、新規営業はできないということになる。しかしこういう壁はあまり意味がないことを、後年、しみじみ知らされることになる。

8:我が道をゆき源泉を確保

むろん、マロニエが手を挙げても、組合は湯を分けてくれる様子はなかった。それどころか、下呂温泉の名前はつかうな、マロニエ萩原温泉にせよ、地元業者から仕入れはさせない、観光協会に入れないなど、下呂温泉の主流派からはさんざんクレームが来た。したがって、ホテル用地の売主は温泉権を付けて売却する必要があった。それには地主が自前で掘って当てるしかない。用地は高台にある。温泉は河原かその付近に出る(かもしれない)。河原かその近辺で掘り当てた湯を高台にポンプアップする。そこでどうしても温泉掘削許可が必要になる。

以下は筆者の独断だが、ホテル用地が萩原町にあったことが幸いした。温泉法で許可権者は知事、しかし後難を恐れ、許可にあたって知事は市町村長から「推薦」をもらう、市町村長は地元の「同意」を取る、地元とは同業者の団体、これが次の選挙の票を左右する。地元の同業者団体の同意がなければ、まず許可は出ない。仮に申請者から書類が出てきても、県庁の窓口は書類を受け取らない、いわゆる窓口指導である。

当時の萩原町長は、大きな建物が建てば固定資産税が入ってくると計算したかもしれないが、マロニエに抵抗してまで、地主の温泉掘削を不許可にする理由はない。古来、益田郡の中心は萩原町であって、下呂温泉ではないという自負もある。合併して下呂市となったけれども、市役所をどちらに置くかは、いまなお決着していない。



【13】益田川西側の斜面に立つ宿泊施設群

9: バブル崩壊を乗り越える

かくしてマロニエは自前の源泉を確保した。念のためというので 2 つ確保した。マロニエの温泉は、複数の温泉井の混ぜモノではなく、源泉の温泉という自負が生まれた。

89 年の下呂につづき、この時期、用地はまだ高騰していたが、92 年に内海(愛知県・南知多町)をオープン。会員権の販売も進み、諸事順調に運んだ。あと からでしか分からないが、株価の頂点は 1989 年の暮であった。なかなか難しい判断だったが、東海 3 県に 1 か所ずつ展開しようということで、93 年に湯の 山(三重県・菰野町)が温泉付きでオープンした。

しかしバブル経済が崩壊した。あとからでしか分からないが、株価は 1989 年の暮、ゴルフコースの会員権価格は 90 年 2 月あたりがピークだった。ゴルフ会員権価格が、返済を要する預託金以下になると、預託金が返還できなくなった。日本の会員制ゴルフクラブのほとんどが預託制であった。シミュレーションでは分かっていたことだが忘れていた。起きたことは仕方がない。ここが経営手腕の見せ所で、預託制 を株式制などに模様変えたところは、会員がメンバーとしてプレイする本来の目的を維持できた。

宿泊事業はそれから 4・5 年遅れ、1994-95(平成 6-7)年あたりで売上のピークが来た。名門旅館の倒産は続いた。

東京・銀座の地価は急降下した。半値八掛け 5 割引き。それでもまだ高いと言われた。担保の資産は急落しても預かった預金は減らない。資金の流れがついに止まり、日本長期信用銀行や北海道拓殖銀行が倒産した。

長崎オランダ村のハウステンボスや、鳴り物入りの宮崎・シーガイアの主力銀行の日本興業銀行や第一勧業銀行も、事実上整理され、みずほ銀行に統合された。資金の供給を断たれた事業主体は倒産した。

バブルに遭遇したのは仕方がない。ここをどう持ちこたえるかが問われた。マロニエの当初の事業主体も、主力銀行の東海銀行が三和銀行に合併される金融再編成の波にのまれ、2001 年 10 月、名古屋地裁に民事再生法の適用を申請、事業継続を断念した。

ただ、マロニエホテルの権利は会員の方々のもので、資産の大半は会員の所有であったことや、1998 年より、

3 ホテルの管理組合より委託を受けた現在の運営会社が主体となってホテルを運営していたので、事業主の法的申請時に一時動揺があったものの、会員の力強い激励を受けて大過なく運営されていた。さらに、数年後には銀行やゼネコンが押さえていた未販売の会員権を運営会社及び関連会社が全て買取り、マロニエは新しい会員制リゾートクラブとして、再び生き返ったのである。

現在、マロニエの会員権は預託金をなくし、不動産・入会金・修繕積立金にて構成されている。マロニエの運営会社は、引き続き3ホテルの管理組合から委託を受け、健全経営を続けている。



【14】経営不振に陥った九州のテーマパーク・リゾート

上図の A が第一勧銀系の宮崎シーガイア(2001年2月・会社更生法申請)、B は新日鉄系の北九州スペースワールド(05年5月民事再生法申請)、C は興銀系のハウステンボス(03年2月会社更生法申請)。こうしてみると、国内の主力市場から遠すぎる。シーガイアの投資額は東京ディズニーランドの初期投資とほぼ同じである。

【5】ゆとりプラン

10: 自主的健康維持を促進するゆとりプラン

落ち着きを取り戻したマロニエは、事業本来の目的である余暇と健康の提案を考えた。開業当時、会員の60%であった個人が70%に増えて、徐々に高齢化、元気な老人が実需としてこの施設を使っていた。

2003年頃、創業者がコート・ダジュールのとある温泉ホテルで、15名くらいの宿泊客が、朝起きて、カリキュラムに従って運動している場面に出会った。自分でやって見ると、お腹が空いて、なかなか爽やかになり、これはいいと思った。

そして、たまたま、神奈川県湯河原で、温泉を利用しての長期滞在、そして栄養管理された食事付(1食1,600カロリー)で、低料金(1泊3食6,500円)で提供し、稼働率90%を挙げている例に出会った。おそらく、湯河原厚生年金病院の裏手にある湯河原厚生年金保養ホーム(財団法人厚生年金事業振興団の経営・http://www.kjp.or.jp/hp_13/contents/index.html)のことであろう。利用者平均年齢70歳以上、2名1室、利用期間は1週間から最長1ヶ月、毎月または隔月周期で利用する、東京・神奈川に在住するリピーターが多く、な

かには関西からわざわざ 訪れる客もいるという。1 週間いると仲間ができるし、親子や家族で利用してコミュニケーションを図るにもよい。

(注)平成 20 年度・内閣府委託調査「団塊の世代を活用した地域活性化に向けての調査研究」財団法人関西情報・産業活性化センターの『同報告書』(<http://www.kiis.or.jp/research/dankai/>でダウンロード可能)、その「資料編」で、施設のヒアリングと湯河原の街の状況が紹介されている。

これを下呂でやってみようと思いつき、「ゆとりプラン」を考えた。

11:6泊7日、17食、1名1室で会員 50,000円

ゆとりプランは、日曜チェックイン、土曜チェックアウトの6泊7日。1日1600~1800Kcalで計算された全17食付。長期滞在型の健康促進プランである。カロリー計算も大事だが、追加料金を払って食事を増量できるようにしたり、昼食はホテルで摂らずに、ランチ気分を壊さず外のカフェで茶飲み話して もいいように、旅行気分での滞在できるように配慮した。

2012年 11月											
ゆとりプラン											
	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	合計	平均	
類	クラムチャウダー 法蓮草のソテー ポテトサラダ ヨーグルト フリードリンク	127 118 118 35	野菜味噌 納豆 切干大根 一口がんと	47 44 54 92	コンスープ スクランブルエッグ サラダ ヨーグルト	100 100 40 35	味噌汁 塩巻玉子 鮭魚卵 高野豆腐	54 84 14 54	パンブキンスープ ハムエッグ 出汁巻玉子 サラダ ヨーグルト	100 121 40 35 35	443
食	<フリードリンク> トマトジュース オレンジジュース 牛乳 バタージャム	25 35 82 82	フルーツ フルーツ 味付海苔 バターロール 味噌汁・香の物	30 30 5 100 110	フルーツ フルーツ 食パン バターロール バタージャム	30 30 80 80 110	フルーツ フルーツ 味付海苔 バターロール 味噌汁・香の物	30 30 80 80 110	フルーツ 食パン バターロール バタージャム	30 80 80 110	305
カロリー	822kcal	622kcal	568kcal	575kcal	531kcal	597kcal	576kcal	576kcal	602kcal	602kcal	
昼食	奥(函)うどん (小盛)	玉子丼	天婦羅蕎麦 (小盛)	野菜カレー	五目飯かけうどん (小盛)	小ライス	サラダ	小ライス	100	100	
カロリー	400kcal	438kcal	420kcal	490kcal	380kcal						
夕食	鯛塩焼 鮮魚 二種 茶碗蒸し 鮎肝豆腐	飛騨鶏しゃぶぶ 水菜と揚げの煮物 鰻かまぼこ漬 (漬物) 鮎肝豆腐	188 46 46 46	牡蠣フライ 向心やが 煮魚鰯節味噌和へ 湯元の鰯節和へ	135 87 41 34	飛騨の鶏ちゃん 鱈山掛け 炊合せ 貝割れ水巻	180 73 18 12	煮魚合せ 煮魚の煮付け 鰯節としらすの 鮎の物 甘海老塩辛	180 120 24 24 31	飛騨鶏しゃぶぶ 揚げ玉子の味噌揚げ 鰯節 法蓮草のお浸し	180 50 24 11
食	御飯 味噌汁 香の物 果物	240 30 25 30	御飯 味噌汁 香の物 果物	240 30 25 30	御飯 味噌汁 香の物 果物	240 30 25 30	御飯 味噌汁 香の物 果物	240 30 25 30	御飯 味噌汁 香の物 果物	240 30 25 30	
カロリー	682kcal	673kcal	644kcal	630kcal	687kcal	657kcal	634kcal	634kcal	682kcal	682kcal	
合計	1504kcal	1295kcal	1212kcal	1205kcal	1218kcal	1254kcal	1210kcal	1210kcal	1284kcal	1284kcal	

*エネルギー計算は、朝食の御飯125g(お茶碗軽1杯)、夕食時の御飯150gで計算してあります。
*朝食メニューのエネルギー計算には、飲み物は含まれていません。

ホテル・マロニエ下呂温泉

【15】ゆとりプラン献立表 例 プランの説明は→<http://marronnier.info/gero/yutori.html>



【16】献立に沿って提供された夕食事例

つまり、このプランをどう自分のなかに位置づけるかは、利用者の自主性にゆだねた。家族のコミュニケーションなら夕食に飲酒するだろうし、減量組はこれで も量が多いとしてご飯を残すかもしれない。飛騨に興味のあるお客はホテルの昼食をとらずに、ここを拠点に動き回るのであろう。あとの章でモデルプランをいくつか考えてみよう。

滞在中は軽い運動が重要だ。マロニエの所在地の標高が 445m、岐阜県道 88 号下呂小坂線からホテルへの入路の辺りが標高 405m、下呂駅は標高 375m、マロニエー駅の距離が 2.0 km。また、下呂駅ー下呂大橋・ガス灯(標高差なし)の距離は 450m。マロニエー下呂大橋・ガス灯(標高差 70m)は距離 2.2 km。88 号線は歩道がなく散歩にいささか不適だが、運動するにはちょうど良いかもしれない。



【17】街中で拾った「下呂温泉さんぽガイド」から。図はその一部分。左上に「マロニエ下呂温泉」がある。

【6】ぴんころ地蔵のこと

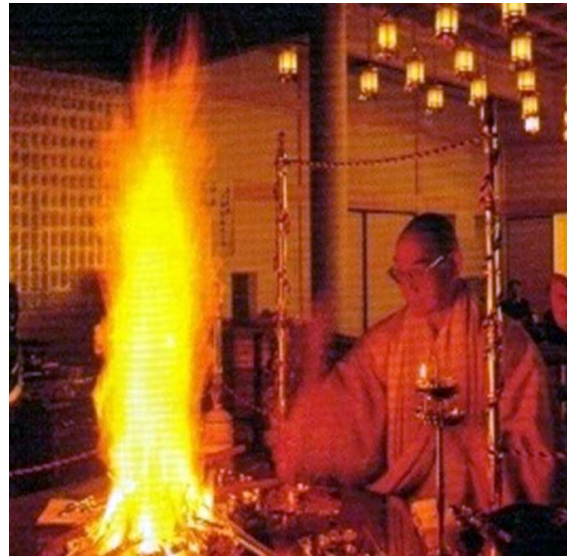
12: 信州・佐久と飛州・信貴山の合作「ぴんころ地蔵」

2007 年 7 月、マロニエ下呂温泉 20 周年記念事業として隣の地主に交渉し用地を得て、命の道(健康ロード)と称する散歩用の林道と、その道すがらに「ぴんころ地蔵」と「観音菩薩」を建設した。



【18】マロニエのぴんころ地蔵尊

川を挟んで反対側の高台にある飛騨信貴山・山王坊が精入祀り(開眼供養・新作仏像仏画を供養し眼を点じ魂を迎え入れること)をした。健康で長生き、楽に大往生、子供の健やかな成長と家運隆盛を祈願する。



【19】開眼供養した飛騨信貴山・山王坊

マロニエ下呂温泉の名湯効果に加え、命の道を散策し、心地よい運動に汗を流し、此の世に生きる喜びを感じ、霊層昇華、禅の心を高め、観音菩薩、ぴんころ地蔵へのお参りを提案している。

モデルは長野県佐久市のぴんころ地蔵。同市は、平均寿命で長野県は全国1位、90歳以上の平均余命 3.9歳、活動余命 2.2歳、老人医療費 65.8万円(全国平均 83万円)、65歳以上寝たきり高齢者率 2.98%(同 5.33%)、痴呆高齢者率 0.52%(同 0.59%)。ピンピンコロリは実証され、信州佐久は日本でも有数の長寿に里とのことである。毎年7月24日地蔵盆に催事がある。

(注)ぴんころ会(のざわ商店街振興組合)のホームページ。<http://pinkoro.com/index.php?id=75> 参照。数字の出典は厚生労働省「平成17年度都道府県生命表」07年12月である。

13:ゆとりプランと滞在期間

ゆとりプランに参加すると、ふだん生活している場とは切り離されたところで、1週間、168時間という時間が手に入ることである。この時間を使って何をするのか、あらかじめ考え、みずから納得しておけば、なにがしか達成感が味わえる。

1600カロリーに制限された食事、温泉、きれいな空気と水。椅子と机とWeb。あるものは、これくらいだ。カジノやレストラン街があるわけではない。コンビニやパチンコ屋でさえ遠い。江戸時代の狂歌というか道歌がある。

ほととぎす自由自在にきく里は

酒屋へ三里豆腐やへ二里

ホトトギスが自在に聞けるような里に住んだら、もう誰も相手にしてくれなくなるから、そうならないように気を付けよう読むのか、ホトトギスの里に住んでも、なお自分は存在しているから俺は偉いんだと読むのか、あるいは世の中とは一方を得たら片方は得られないものなのだと読むのか。

ここは、ホトトギスの聞ける里に、あえて1週間滞在してみよう、何か得られるはずだという提案として読む。わざわざ、カネを出して、この生活をしてみよう。ただし1週間だけ…というプロジェクトである。なにか得るもの

がある。むろん、好みで、ハワイのワイキキの1週間よりも、ネバダのラスベガスに1週間いるよりも、下呂の郊外のマロニエの1週間の方が良いという選択が前提になる。

いずれにしても、すべて自分で考える。リゾートの原点であり、ここが観光といささか異なるところである。

【7】過ごし方の分類

14: 滞在期間中の過ごし方を考える醍醐味

さて168時間どう過ごすか。このゆとりプランのおもしろいところは、その中身を自分で考えるところにある。ここに単なる観光と異なるリゾートの醍醐味がある。

温泉だって、1泊して2回入ると、7日滞在して20回入るとは、だいぶ効果が違う。3日目過ぎたあたりから実感できるという体験談もある。

これまでの事例(年間1000-2000件程度)から、過ごし方は、インドア組とアウトドア組に分かれる。

インドア組は、①部屋にこもって読書にときどき温泉と散歩、②おなじくパソコンを使ってデスクに向かいときどき温泉と散歩、③その他のデスクワーク、④以上のことをしながら、ふだんの喫食を反省し、密かに「減量」を目的にする例もある。ついで歯がおかしかったら、マロニエに紹介してもらって歯科医に行くのもよい。

アウトドア組は、④歩き派、⑤自転車派、⑥クルマ派に分かれる。以下の標高や距離(片道表示)はgoogleによる単純な測定である。

④はマロニエ周辺の10分・20分・30分の定形コースを繰り返す。



【20】マロニエの例示

飽きたら、下呂駅までいく(2.0 km)、下呂大橋をわたって温泉寺くらいまでいく(2.8 km)、なかには、下呂合掌村まで往復する(3.2 kmの往復)、禅昌寺まで行って帰る(3.9 kmの往復)例もあった。



【21】上図の A 禅昌寺 B マロニエ



【22】上図の B マロニエ、C 下呂駅、D 温泉寺、E 下呂合掌村

なお既述したところだが、高低差があるので計算に入れておく必要がある。マロニエ(446m)と下呂駅(376m)は約 70m、マロニエと禅昌寺(410m)は約 30m、下呂駅と温泉寺(426m)は 75m、下呂駅と下呂合掌村(453m)は約 80m の高低差がある。

また、400m 程度とはいえ山岳地帯のなかである。天候の異変は平地とは異なる。登山となれば、それなりの準備が必要になる。

13 時半から 18 時まで下呂駅から「飛騨タクシー」に乗ると、マロニエ負担で無料という「励み」も用意してい

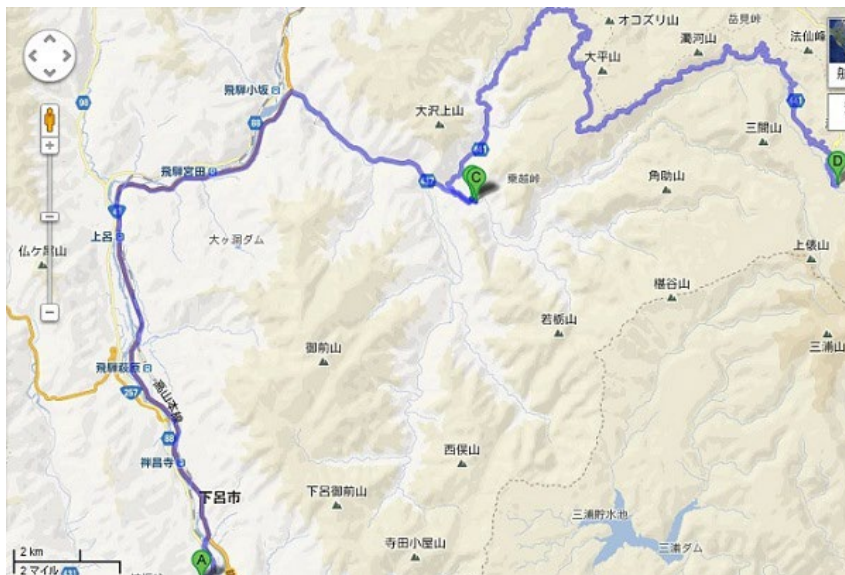
る。天候の様子を見ながら、思いきって、手ぶらで行くのもよい。

⑥歩き派であげた近郊の他に、下呂カントリークラブ(12 km)、朽本農園(14 km)がある。トマトが大好きな方もトマト嫌いな方でもおやつのように食べるフルーツトマト狩りの農園で創業者の親類の経営である(<http://tochimotonouen.com/>)。あとで取り上げる。



【23】上図の A マロニエ、B 朽本農園、下呂カントリークラブは B の西側

飛騨小坂町にある3つの温泉のうち下島温泉・湯谷温泉(ひめしゃがの湯)と巖立峡(28 km)、濁河温泉(標高は 1780m・53 km)がある。それぞれ温泉は、マロニエの下呂温泉とはかなりちがった個性がある。飲用可のところもあり、ペットボトル持参で採湯するのもよい。



【24】上図の A マロニエ、C 下島温泉・湯谷温泉(ひめしゃがの湯)・巖立峡、D 濁河温泉。

なお、マロニエから高山郡代陣屋(高山市)は約 50 kmである。

また、高山経由して飛騨白川郷に約 96 km、富山はその 80 km北にある。下呂での滞在という点ではいささか

遠方になり、滞在(stay)よりツアー(tour)つまりは観光(tourism)の部類に入り、この原稿のテーマからは外れる。濁河温泉の近くにJR 東海系三セク経営のチャオ(62 km)というスキー場がある。さらに 50 kmほど下れば、信州側の木曾福島になる。



【25】上図の A マロニエ、高山経由、B 白川郷

⑤自転車派は歩き派とクルマ派の間という感じになる。天候の変化と交通事故には十分な注意が必要であろう。

【8】朽本(とちもと)農園・ガン封じ寺・飛騨小坂町の温泉など

15: 朽本(とちもと)農園のこと

ミニトマトにして高糖度・美味をフルーツトマトという。朽本農園は「フルーツトマト狩り」を楽しめる農園である。下呂市御厩野(みまやの)にあり、収穫期は夏、7月初旬~10月初旬の午前 9:30~12:00 午後 13:30~15:30 に営業する。12年度の年間入場数は約 4000 名であった。

フルーツトマトは、「トマトが大好きな方もトマト嫌いな方でもおやつのように」食べることができるという。含まれるリコピンは生活習慣病のもとになる活性酸素を減らし「抗酸化作用」を高めるので、トマトの赤い色素は人气的だ。



【26】収穫期が終わったトマト農園



【27】経営者の朽本夫妻

「学校給食で子供達に生のトマトを食べさせたいという思い」から、朽本弘明が 1998(平成 10)年頃、一般的な中玉のトマトを栽培していたが、一口サイズに包丁で切る作業が、O-157 の流行で難点となり、子息の達治がミニトマトの栽培を研究した。これが始まりである。寒暖差が激しいという風土のメリットが幸いしたのと、徹底的な土壌の改良を試みた成果がいまに至っている。主力栽培品種は「華小町」、収穫品のほとんどが直売・即売用で、一般市場にほとんど出ない。

東京・六本木から飯倉片町を経て古川橋に向かう途中、赤羽橋から来る T 字の交叉点あたりが麻布十番である(地下鉄南北線・都営地下鉄大江戸線の麻布十番)。居酒屋が多数あり、お澄ました住宅地のなかに「麻布商店街」がある。夏に「麻布十番納涼まつり」が開催され、お国自慢野菜祭りのなかで、朽本農園のフルーッとマトも活躍する。

「昔のトマトの味がする！」「戦後の、あのおいしいトマトの味がして懐かしい！」「野菜嫌いだけどこのトマトなら食べられる！」との定評がある。詳細は、ホームページをご覧ください。→ <http://tochimotonouen.com/>

16:ガン封じ寺(金錫山地蔵寺)由来

延命地蔵願王菩薩は、胎内に 15cm の地蔵を秘蔵し、純金の錫杖を持つ(岐阜県重要文化財)。当寺はこれを本尊として安置する。



【28】「ガン封じ寺」正門

ところで、飛騨国分寺は、高山にあり高野山真言宗・医王山のことであるが、聖武朝の757(天平勝宝)9年頃行基が建立した。その後、794(延暦13)年から桓武朝(平安時代)になる。

その頃、飛騨に疫病が流行り、「やせて苦しみ、生きながらにして地獄に落ちる」と恐れられる。本寺は、湯殿山(出羽三山・開山は蜂子皇子・別称能除太子・崇峻帝皇子)の末寺として建立され、祈禱により不思議にも靈験が授かり、「難病におかされず逃れることが出来た」という。なお、「今日でも発病する者は少なく、発病しても治る者が多く…」とある。源頼朝が舞台峠に勅願の大威徳寺を建立するに当り、また、室町時代飛騨の領主三木一族が平定するに当り、当寺の靈験を厚く信仰、1550年(永禄)頃に「金錫山地蔵寺」として建立された。本尊5尺の地蔵尊の腹にある純金の杖(錫杖)こそ、ガン退治の源であるという。

飛騨は東山道支道の終点にして、東山道本道の終点辺りの出羽三山のひと縁があるのは、羽黒山山岳信仰の浸透を物語り、興味津々である。

17: 旧・飛騨小坂町の温泉のこと

小坂(おさか)は、益田郡の町で、04(平成6)年に下呂市に合併された。御嶽の飛騨側の登山口があり、飛騨・小坂両川とその支流の谷底にある自治体だったが、3つの温泉は県立公園内の地味で目立たない存在だが、なかなか捨てがたい味がある。



【29】名勝・巖立峡



【30】巖立峡の岩肌



【31】ひめしゃが湯の採湯口



【32】湯谷温泉の飲泉場

旧町の 97%が山林、60%以上が国有林、ここだけで営林署を設置したほどの山林王国で、「森の巨人」の愛称にふさわしく、ことに町内・赤沼田(あかん た)には、1842(天保 13)年頃に植林されたスギ・ヒノキ・サワラが手つかずに残った森林「天保林」があり、高齢造林として学術参考保護林・赤沼田天 保ヒノキ群落保護林としての指定がある。

また、これら森林のなかに、標高差 5m 以上の滝が 200 か所以上あり、文字通り「滝の町」であり、なかでも標高 2800m の滝は霊験があるので、下呂ご滞在の折には探訪をお薦めしたい。小坂下島・湯屋・濁河(にぎりご)の三泉もまたこうした環境下に立地する。

温泉名	特色	備考	立地
下島	炭酸泉 源泉温度 15・18℃。放射能泉も存在。	日帰り入浴施設に「巖立峡ひめしゃがの湯」。飲泉場あり。湧出時は無色透明なるもすぐに茶褐色に変色。	濁河川沿いの温泉地。「巖立」と呼ばれる巨大な安山岩の岩壁
湯谷	含二酸化炭素・ナトリウム 炭酸水素塩・塩化物泉 15℃	胃腸に効能。炭酸含有量 7909mg は日本一。サイダー温泉。飲用可。	小坂川の支流大洞川沿い 山間部の温泉地。共同浴場なし。
濁河	含土類芒硝泉・鉄分による茶色い濁り湯。45.6℃	公営露天風呂あり。神経痛、動脈硬化症、高血圧症など	御嶽山 7 合目、標高 1,800m に温泉街。通年自家用車可。